

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：健康増進対策費

事業名 親子で楽しむ健康づくり推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 保健医療課 健康増進係 電話番号：058-272-1111(内3316)

E-mail：c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 719 千円 (前年度予算額： 961 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	961	0	0	0	0	0	0	0	961
要求額	719	0	0	0	0	0	0	0	719
決定額	719	0	0	0	0	0	0	0	719

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

南飛騨健康増進センターは県民や一般来訪者が様々な健康法を気軽に楽しみながら学習、体験、実践し、交流できる県民の「健康道場」としての機能がある。これまでは高齢者を対象とした健康寿命を延ばすための心と身体の健康づくりを実践していたが、その対象者を子供とその親の世代まで広げ、それぞれふれあいながら体力向上と身体の健康増進を目指す運動を展開する。

(2) 事業内容

下呂市萩原町四美地区に所在する南飛騨健康増進センターを健康づくり拠点施設として、森林、里山、温泉施設を活用した各種体験講座を親子で楽しみながら、心と体の健康維持を推進する。

1. 「親子で楽しむ健康講座」

南飛騨健康増進センターの森林や施設を使い、「自然観察」、「キャンプ体験」、「クラフト」、「クッキング」などの、日常的でない健康体験を親子で行うことにより、リフレッシュ効果を得ることを目標とする(年間25回開催)。

2. 「オリエンテーリング体験会&教室」

南飛騨健康増進センターにはオリエンテーリングのパーマネントコースが設営されているため、この有効利用を図り、地元下呂市民も含め広く当地に関心を持ってもらうことを目標として、一般の方を対象としたオリエンテーリングの体験会を開催する。(年間1回)

(3) 県負担・補助率の考え方
県10/10

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	378	「親子で楽しむ健康講座」講師への報償費
旅費	94	「親子で楽しむ健康講座」講師への旅費
需用費	113	「親子で楽しむ健康講座」に係る消耗品費等
役員費	32	「親子で楽しむ健康講座」に係る郵送料、保険料
委託料	102	オリエンテーリング体験会に係る経費
合計	719	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

南飛驒健康増進センターの知名度・魅力を高め、老若男女多くの県民に利用される施設とするとともに、南飛驒の地域特性を活用した県の健康増進の拠点施設とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

県の健康増進の拠点施設としての機能を果たしているかどうかの指標は、単に利用者数だけでは判断できないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 親子で楽しむ健康講座はコロナウイルス感染症及び豪雨災害の関係で計画の半数が中止となったが、感染症対策を徹底し4回を実施、近隣地域からの参加者を呼び込むことができた。 同講座及びキャンプ縄文のチラシを下呂市内の小学校の他、関係機関へ配布及びタウン誌へのイベント広告を行い施設の利用を促進した。 日帰りバス旅行は、18名参加者を得て健康づくりへの関心と当センターの知名度の向上を図ることができた。
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 親子で楽しむ健康講座は16回開催することができ、近隣地域からの参加者を呼び込むことができた。、日帰りバス旅行は2回の開催を計画した。 同講座及びキャンプ縄文のチラシを下呂市内の小学校の他、関係機関へ配布及びタウン誌へのイベント広告を行い施設の利用を促進した。 日帰りバス旅行は、12名の参加（1回開催）があり、健康づくりへの関心と当センターの知名度の向上について一定の効果があった。
令和4年度	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子で楽しむ健康講座は18回開催することができ、近隣地域からの参加者を呼び込むことができた。 同講座及びキャンプ縄文のチラシを下呂市内の小学校の他、関係機関へ配布及びタウン誌へのイベント広告を行い施設の利用を促進した。 日帰りバス旅行は、12名の参加（1回開催）があり、健康づくりへの関心と当センターの知名度の向上について一定の効果があった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	心と体の健康維持や病気の発症予防の推進による県民の健康寿命の延伸に資するなど、県の健康づくりの拠点施設として活用していく必要がある。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	センターの知名度が低いという課題はあるが、健康体験講座に対する県民の満足度は高く、コロナ過ではあるが、多くの講座を開催することができた。
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	地元関係者を会員とした「南飛騨健康増進センターの活性化に向けた意見交換会」において、事業の実施方法や施設整備に関し意見交換を行い、予算や運営への反映を検討している。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 センターの知名度を向上させるための積極的なPRを実施するとともに、センター単発ではなく、民間の知恵や南飛騨地域の特性・資産等を活用した誘客事業を行う必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 更なる誘客のため、知名度向上のための積極的なPRや魅力ある健康体験講座の設定、民間の知恵や南飛騨地域の特性・資産を活用した誘客事業などに取り組んでいく。
--